

1 学校教育目標

- 1 児童生徒一人一人の能力や適性に応じた教育活動を実践する。
- 2 互いに励まし助け合い、たくましく生き抜く児童生徒を育成する。
- 3 社会的自立や将来の豊かな生活に向けての知識・技能・態度を育てる。

2 本年度の重点目標

- 1 一人一人の教育的ニーズを把握し、発達や障がいに応じた教育の推進
- 2 基礎的な学力の向上と健康で明るい生活を送るための調和のとれた心身の育成
- 3 将来の自立と社会参加を目指したキャリア教育の推進と共生社会の実現
- 4 教職員の専門性・資質・指導力の向上と組織的・計画的なカリキュラムマネジメントの推進
- 5 家庭、地域、関係機関との連携した教育活動の充実

3 自己評価総括表

大項目	評価項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
学校経営	学校教育目標及び重点目標の周知と具現化	学校教育目標及び重点目標に沿った教育活動を行うことができたか	全職員が学校教育目標及び重点目標を共有し、それぞれの教育活動に反映させる。	職員会議で周知徹底する。職員の業績評価における目標に反映させる。	A	・コロナ渦の中、行事の中止、縮小、内容の変更を行いながらも、教職員の共通理解のもと、学校の教育目標、本年度の重点目標に沿って、教育活動を実施することができた。新型コロナウイルス感染症の状況にかかわらず、教職員の創意工夫がさらに次年度も生かされるようにする。
	コンプライアンス意識の高揚	教育公務員としての自覚をもち、不祥事防止に向けて取り組むことができたか	職員の交通事故、交通違反を削減する。 USB情報記録媒体の不祥事の未然防止を徹底する。	交通安全職員研修を実施するとともに、交通事故・違反防止の効果的な情報を職員に提供する。 研修のみならず、定期に管理するなど、USB情報記録媒体の管理のシステムを再構築し、組織管理を高める。	A	・「コロナ渦の中、計画をしていた講師を招聘しての研修はできなかったが、三密を避けた研修を工夫して行い、交通事故と交通違反は減少した。
	業務改善・働き方改革	働き方改革の趣旨を理解し、時間外従事時間を削減できたか	正規の勤務時間外の従事時間を月4.5時間以内の教職員を9.5%にする。	教職員一人一人の意識改革のための、情報提供、毎週水曜日の午後6時施錠	A	・「情報管理委員会からの管理に関する情報提供や定期的管理状況の確認により、未然防止が徹底でき、漏洩や紛失等は一件も起こらなかった。」 ・6時退勤日や7時退勤週間の共通理解が深まり、昨年度に比べると、劇的に時間外勤務が減少した。さらに、7時退勤週間を設けて効果があがっている。業務多忙の中での改善は難しいかもしれないが、業務を「なくせないか」「減らせないか」「代わりに何かできないか」という視点で、更なる工夫と意識改革により働き方改革を推進していきたい。
	学習指導の改善とカリキュラムマネジメントにつながる学習評価の充実を目指す。	職員一人一人がカリキュラムマネジメントを意識し、次年度の教育課程編成に活用することができたか	職員の授業力や指導力を高める。 次年度の教育課程編成に、授業の評価シートを活用する。	・校内職員授業参観を定期的に行い、授業の指導と助言を行い、授業改善を行う。 ・学習評価の集計から、目標設定や学習内容等の検討をし、授業改善を行う。 ・学部に評価・分析方法の検討を行い、評価シートを作成し、教務部と連携して評価シートの教育課程編成への活用方法を協議する。	B	・「年1回校内授業参観を実施。略案に助言をもらいたい内容について記載し、参観者からコメントをもらったことで、指導の改善に生かすことができた。」 ・「学習評価集計結果から見えた目標・評価規準の設定、学習内容等について検討したことで、学習内容の焦点化や精選ができた。また、職員一人一人の学習指導要領の読み込みができてきたことにより、授業内容の充実につながっている。」 ・「学部に評価・分析方法について検討したことにより、学習評価シートが完成したが、今年度は評価シートの活用方法について十分に協議できなかった。次年度初めに教育課程編成に向けての方向性を示し、学習評価の蓄積を行い、その評価に基づき検証していくことが課題である。」
キャリア教育	キャリア教育の充実	児童生徒の学びとキャリア教育の視点を意識した授業作りができたか	学校教育目標および学部教育目標とキャリア教育に関する諸能力との関連性を明らかにし、教育課程への位置づけとその工夫の仕方を整理する。	キャリア教育の視点で整理した育てたい力のチェック表を作成し、学習内容の年間計画を作成する際に活かす方をキャリア教育研修会で周知し、小、中、高一貫したキャリア教育の推進を図る。	B	キャリア教育の視点チェック表を作成し、各学部の傾向を分析した。今年度の結果を次年度の学習内容に反映させると共に、授業計画段階での視点を意識し授業に生かす方法など、チェック表の活用方法が今後の課題である。
	進路支援の充実	一人ひとりの児童生徒に応じた進路指導ができたか	中学部3年生3人、高等部3年生10人の進路実現を図る。	生徒と保護者が事業所の仕事内容や条件を分かりやすく閲覧できる事業所ガイドブックを作成し、現場実習の事前学習や事後学習、進路面談で活用することで、生徒自身が自分で納得し進路決定できる一助とする。高等部3年生の進路決定に際しては、ケース会議を開き、様々な視点から、チームとして生徒の適性と進路先を考える。	B	今年度の現場実習先のデータを基にガイドブックを作成した。新型コロナウイルス感染拡大防止の影響により実習が難しい職種があるとともに、人吉球磨地域以外の地域での就労を考えている生徒もいるため、今後は掲載する事業所を増やしていきたい。高等部3年生においては、新型コロナウイルス感染拡大防止の影響により現場実習の実施が難しい生徒もいたが、担任、保護者及び外部機関との連携を図りながら、10人全ての生徒の進路を決定することができた。
生徒指導	問題行動等の未然防止	生徒指導等に関する情報の共有、全職員の共通理解のもとで生徒指導を実施することができたか	・生徒指導上の問題事案等について、職員間で情報共有を行う。 ・一貫した指導ができるよう、共通理解を図りながら生徒指導を実施する。	・学部主事や学級担任との連携と分掌部会で生徒指導に関する情報共有を行い、共通理解を図る。 ・実態に応じた「高等部生徒心得」「中学部のきまり」の内容の見直しと情報共有を行う。	A	・「分掌部会において毎回、生徒指導に係る問題事案について情報共有を行ったことで、大きな問題事案は発生しなかった。」 ・「組織的な対応が求められることは、ヒヤリハット事例が起こった後に全職員にマニュアルに沿って周知することができた。」
	安全な登下校指導及び関係機関との連携	児童生徒の安全・安心な登下校体制を確保することができたか	・自力通学生に対する登下校指導と通学路の安全確認を徹底する。 ・通学バス、保護者送迎、放課後等ディサービス事業所の校内への安全な乗り入れ体制を整える。	・定期的に登下校指導を実施し、通学路に危険箇所がないか安全確認をし、職員間で情報共有を行う。 ・バス会社と定期的な情報交換会を実施し、放課後等ディサービス事業所については駐車箇所について共通理解を図る。	B	・「多良木警察署と連携した交通安全教室を実施したり、通学バスからの降車の際に横断歩道に信号機を設置して指導をしたり交通安全指導を行うことができたが、交通事故事案が1件あった。事故後の対応についても生徒にも周知する必要がある。」 ・「バスの台数変更に伴った、駐車場所の変更や添乗員の交代などその都度、関係機関と連携をとり、利用する保護者に周知することで、組織的な対応、体制ができた。」
人権教育の推進	人権教育	人権教育の推進はできたか	学校全体で人権学習を推進する体制をつくり、各学部の発達段階に応じた実態に即した人権教育を実施する。	あらゆる教育活動で、各学部の知的側面(人権問題を知ること)、価値的・態度的側面(自分も他者も大切に思う心)、技能的側面(気持ちを適切に伝え正しく行動する)を全職員が意識して教育活動を行うことができる。	B	学部ごとに人権問題に取り組んだ。小学部では、「友だちの良い所を見つけよう」、中学部では、「被差別部落問題」、高等部では、「性的マイノリティ」と「北朝鮮拉致被害者問題」の人権問題を取り扱い、人権感覚を高めることができた。
		全職員の意識が高まり、人権意識が高まったか	校内外の研修会へ積極的に参加すること等により、全職員が人権教育に対する基本的認識の深化を図るとともに、教育の実践的指導力の向上をはかる。	職員がお互いの教育実践上の課題等について日常的に相談し合えるようにするとともに自由な意見交換のできる研修等の実施により人権問題に対して正しい理解を深める。	B	新型コロナウイルスの感染防止のため、校外の研修がほとんど開催されず、研修の機会が少なかった。しかし、新型コロナウイルスについては、各学部で感染に伴い起こる差別についてなど詳しく学習に取り組みなど効果的な学習ができた。
	命を大切にすることを育む指導	自他の命を大切にすることや人権を尊重する態度を育むことができたか	人権が尊重される人間関係づくり、人権が尊重される学習活動、人権が尊重される環境づくりを柱にして、人権が尊重されている教育の場としての学校を目指す。	すべての教科等の授業で、「自己肯定感を育む支援」、「自己選択・決定の場」等の工夫を行うことにより、「人権が尊重される授業づくり」を行う。	B	単元配列表の中に人権教育の視点を表記することで、生徒一人一人に対して、「自己肯定感を育む支援」が各学部で実践されている。児童・生徒に教師が寄り添う形で、人権が尊重されている授業づくりを実践することができた。

いじめの防止等	いじめ問題の未然防止対策	児童生徒の実態に応じた実態把握と様子観察を日頃から行うことができたか	・いじめの起こりにくい環境や状況をつくる。 ・日頃から児童生徒の様子の変化に気づけるようにする。	・日頃からストレスマネジメント、カウンセリングマインド等の視点で児童生徒とかわるようにする。 ・学期1回の心のアンケート調査の実施といじめ防止対策委員会を利用し必要な情報を全職員で共有する。	A	・児童生徒の様子観察を日常的に行うと同時に、本校心のアンケート及び県公立学校のアンケートを学期毎に実施し、アンケートによるいじめの発信について拾い上げることができた。 ・いじめ防止対策委員会においてアンケートについて、児童生徒の人権に配慮したアンケートの実施の方法、児童生徒の実態に応じた設問の工夫、集計方法の見直しを行い、アンケート有用性を図ることができた。
	いじめ問題の組織的対応	いじめ問題について組織的かつ継続的な対応に取り組むことができたか	・いじめ問題に対する職員の感度を高め、いじめ問題に対する対応を組織的に行う。 ・いじめ問題について原因や背景、状況等を把握し、当事者間の継続的な指導支援を行う。	・いじめ問題に対する職員研修を実施し、組織的対応の重要性について共通理解を図る。 ・いじめ防止対策委員会の中で、いじめ問題に対して適切な対応を確認し、解消に向けた継続的な取組等について職員間で情報共有する。	A	・本校いじめ防止基本方針についての全体研修を行ったことで、いじめの定義やいじめ事案が起った時の組織的対応について全職員に周知することができた。 ・いじめと認知した事案については、担任を中心に相互に聞き取りを行い、学部や学年なども含め組織的に対応し、継続的な指導支援を行うことができた。
地域支援	センター的機能の充実	人吉球磨地域の特別支援教育の拠点として、地域へ向けて積極的な発信と取組の充実を図ることができたか	地域の学校等や関係機関へ本校の役割や特別支援教育の情報を積極的に発信する。	「球磨支援通信」を通して、教育相談等についての情報や特別支援教育に関する情報を提供する。また、巡回展示会の内容を検討し、本校のホームページとリンクさせた掲示を行う。	A	・「球磨支援通信」で特別支援学級の教育課程について情報提供を行った。 ・巡回展示会の形式を替え、本校の紹介ポスター及び各学部の紹介動画を作成した。本校の理解啓発につなげていきたい。
	交流及び共同学習の充実	各学部において地域との交流及び共同学習の充実を図ることができたか	学校間交流において、相手校の児童生徒と対等な関係で、かつ共に活動の喜びを感じることができるような交流を行う。	校務支援システムを利用し、巡回相談等の件数や研修等の内容について情報提供を行う。また、巡回相談等への同行により、対応についての専門性を高める。	A	・毎月月初めに前月の巡回相談等の件数について情報提供を行うことができた。 ・経験が浅いコーディネーターに巡回相談等同行してもらい、検査の様子や保護者対応について見てもらったことで、専門性の向上につながった。
保健安全管理	学校保健の充実	う歯及び歯周疾患の予防に向けた指導の充実と歯科受診等の家庭への啓発が図れたか	・担任と養護教諭が連携し、歯磨きの習慣化に向けた指導（歯みがきのポイント・歯ブラシチェック等）や歯周疾患予防に向けた指導を、歯と口の健康週間等を活用し取り組んでいく。 ・歯科検診事後指導（受診率のアップ・受診につながらない理由を知り解決方法を一緒に考える等）を家庭と連携しながら行っていく。	・6月・11月に歯と口の健康に関する情報を職員・家庭に知らせる ・歯ブラシの交換時期をほけんだより等で知らせたり、自分で判断できる児童生徒へは歯みがきをする場所へ掲示することで気づきや行動を促す。 ・個人に合った歯みがきのやり方について、児童生徒本人や担任・保護者に知らせる。 ・歯科検診の結果を受け、受診勧告を行うとともに歯科指導に活かしていく。 ・ほけんだよりで歯と口に関する情報を提供するとともに、歯と口に関する保護者の困り事や上手くいった取り組み等の情報を知り、指導に活用する。	B	・ほけんだよりを活用し、歯科に関する情報を家庭に発信することは出来たが、保健室から児童生徒に対して個別の働きかけは十分には行えなかった。また、情報発信はしたが、保護者がどれくらい活用したかなどの実態が把握できなかった点は今後検討が必要である。 ・健康診断後の受診率は、39%と昨年度よりは上昇がみられた。また、定期受診をしている児童生徒も何名かみられており、今後も口腔内の予防的ケアについて、必要性や重要性を伝え、実態を把握するとともに定期受診の児童生徒を増やしていく。
	学校安全の充実	安全管理、生活安全に関する取組の充実による安全安心な学校づくりができたか	・昨年度の「性に関するアンケート」（保護者向け、教員向け）の分析結果を反映させ、児童生徒の生活年齢や発達段階を考慮した指導を行い、目標の達成度、理解度、改善点等を性教育推進委員会にて検討する。 ・LGBTをはじめとした性の多様性について、職員の理解促進を図るための研修の場（紙面での実施も含む）を年に1回以上設定する。	・性教育推進委員会の中で、昨年度の「性に関するアンケート」で保護者のニーズ及び教員が指導が十分ではない項目として上位に挙げていた内容について、取組みの達成状況を確認する。 ・年間計画に入っていない項目において、次年度取り組む必要のある内容について検討し、各学部での検討を依頼する。 ・校内の教材等の管理を行い、一覧できる資料としてまとめる。 ・「性に関するアンケート」を保護者、教員を対象に実施し、次年度の年間計画へ生かす。 ・LGBTをはじめとする性の多様性について、正しい理解を図るための情報提供や、児童生徒及び職員からの悩みや要望（授業での取り扱い方等を含む）を聞き取る無記名アンケート等を実施する。	B	・昨年度の「性に関するアンケート」結果を受けて検討した年間計画をもとに授業を実施し、性教育推進委員会の中で授業の成果と課題、学校全体の検討事項、情報共有等を行った。 ・各学部の取組みの様子については、職員に情報提供を行い、学部間の連携につながるよう努めた。 ・今年度実施のアンケート（保護者・職員対象）の分析を行い、次年度の性教育の年間計画へ反映されるよう職員周知を行った。 ・新型コロナウイルス感染症の関係で、今年度は研修を実施することができなかったが、性教育推進委員会の報告、性教育に関するほけんだよりの発行（年4回）、校内掲示板にて多様性に関する理解に向けた啓発資料の掲示等を行った。
地域連携	学校運営協議会	総合型コミュニティスクール（学校運営協議会）を立ち上げ、軌道に乗せることができたか	運営委員にコミュニティスクール自体と本校の教育について理解を促す。また、地域の学校としての目標やビジョンを共有する。	・毎月学部に向けて保健体育職員より、安全点検及びデータベースへの記入について呼び掛けを行う。 ・安全点検で異常が見つかった際は、安全点検担当と事務部で連携し、迅速に調査、修繕、業者依頼等を行う。 ・年度初めに、安全対策マニュアルの確認を全職員で行い、常に改善を行う。 ・訓練を実施する際は、避難経路の検索、人員報告、通報等の最重要事項について全職員で事前に共通理解を図る場を設ける。 ・職員に積極的なヒヤリハット報告の inputs を促すとともに、全体で確認が必要な案件に関しては、朝会等の時間を活用して報告を行い、全体で情報を共有する。 ・前後期1回ずつを目標に、ヒヤリハット事例の分析を行い、事例の傾向や具体的対策について報告する機会を設定する。	A	・毎月の安全点検にて、異常箇所の報告から修繕等の対応まで速やかに実施することができた。データベースへの入力については、今後も継続して呼びかけ、100%を目指す。 ・今年度は、コロナ対策を行いつつ、少ない回数ながらポイントを絞った形で避難訓練を実施した。訓練前には職員間で避難行動や避難経路、人員報告方法等については確認を行い、実施後にはアンケートにて意見を吸い上げ、共通理解を図ることができた。 ・今年度実施できなかった引き渡し訓練及びそのマニュアルの再検討を行う必要がある。 ・ヒヤリハット報告は2月頭時点で90件弱挙がっており、定期的な呼び掛けもあり、職員の積極的な報告が見られる。 ・前後期1回ずつ、ヒヤリハット報告の分析を行い、職員で共有した。今後はこの分析結果をもとに、次年度同時期に起こりやすい傾向にある事例を周知しながら、予防につながるよう活用していきたい。
	多良木町の防災施設としての役割	福祉子ども避難所として、態勢は整っているか	・「福祉子ども避難所運営マニュアル」の内容を再度検討し、より実効性の高いマニュアルに仕上げる。 ・全職員で「避難所運営ラージング」を実施し、災害発生時の具体的な動き方についてシミュレーションを行う。	・多良木町の防災担当者とな念打ち合わせを行い、町としての役割と学校としての役割を確認しながら、具体的な動き方をマニュアルに盛り込む。 ・「避難所運営ラージング」を紙面上又はオンラインで実施する。	B	・既存のマニュアルの検討及び避難所の視察を行った。視察の様子から、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として密を避ける居住スペースの設置や備蓄品の調整が必要であることを感じた。今後、それらの内容を踏まえた改訂が必要である。 ・「防災管理研修」で得た情報を職員向けに資料を提供し、自分自身の避難行動の取り方に関する啓発を行った。災害時は職員も被災することが想定されるため、対応可能な職員でどう対応していくかというシミュレーションが必要である。

4 学校関係者評価

- ・学校評価アンケートでは、保護者からの回収率は91.4%と高く、学校教育への関心をうかがうことができる。昨年度と同様に「学校の施設・設備は十分に整っている」の項目については保護者、職員ともにマイナス評価「当てはまらない」「あまり当てはまらない」が最も多い項目である。特に職員の評価は低かった。予算にかかわるものが多く、また、多良木高等学校跡地への移転のため大規模な改修等は難しいようだが、施設・設備に関しては、優先順位をつけて計画的にかつ着実に進められている。特に児童生徒の安心・安全に関わることに限っては確実に進んでいる。そのことを保護者には理解していただいている。また、職員には教育環境について具体的に整備が必要となることを挙げさせるとともに、予算に関係なく工夫や努力で達成できることに関しては積極的に改善していくことを計画的に行っている。その他の項目については、プラス評価が90%を越えており、高評価をいただいている。「当てはまらない」のマイナス評価については大きく減少している。マイナス評価である「当てはまらない」「あまり当てはまらない」の内容を分析し、多くの工夫、改善を行い、次年度は、より高評価を得るように取り組んでいく。
- ・コロナ渦の中、評価が低下することを懸念したが、教職員の創意工夫の実践に対する評価が結果に表れている。
- ・本校は教職員は若く、やる気に満ち溢れている。特別支援教育についての専門性の向上については職員の意識も高いので、自己研鑽はもちろんのこと、さらなる校内研修の充実が必要である。地域や保護者からの信頼向上に向けて、専門性向上については次年度も重点目標のひとつにする。
- ・今年度より学校運営協議会を設立し、本校の教育をはじめ地域への啓発や貢献について協議し、可能なことから実践する予定であったが、豪雨、新型コロナウイルス感染症のために、その多くが達成することができなかった。2月の書面による学校運営協議会において、1年間の活動報告や保護者及び職員に対して実施した学校評価アンケートを参考に本年度の本校の教育活動全般について、感想と御意見を伺った。委員の方々から、各学部ともに児童生徒の実態に応じた教育活動を実践されており、よい評価をいただき、特にコロナ渦での取組については高い評価をいただいた。また次の5点については助言があった。
- ・コロナ禍や豪雨災害時の心のケアについては、一人一人の児童生徒に合った対応が必要である。学校再開後の取組は、年度当初の計画どおりにはできなかったが、縮小、内容の変更等、創意工夫をした行事の実施はとてよい。次年度もさらに創意工夫を期待します。
- ・交流及び共同学習が十分にできなかったことは残念でした。次年度に向けて交流のあり方を検討する必要がある。
- ・学校の先生の業務は大変だと思いますが、業務の分担の見直し、授業準備の時間の確保など、「働き方改革」が推進するとともに、風通しのよい職場づくりをする必要がある。
- ・学校の施設・設備については、移転はあるが、必要なものは県に説明し、しっかり要望をする必要がある。
- ・PTA進路研修部は研修はできなかったが、「新聞」という形で、情報発信し、不安や悩みが解消されている。引き続き情報発信をしてほしい。

5 総合評価

- ・本校の教育目標にある、一人一人の児童生徒の教育的ニーズに応じた「最適な指導支援や合理的配慮」や主体的・自発的に取り組む子供の姿を実現し「自立や将来の豊かな生活」を目指すという重点目標が本校の教育実践の中に浸透してきた。
- ・本校児童生徒が安心、安全な学校生活を送ることが最重要事項との認識から、夏季休業前にはすべての職員が救命研修を受け技能を習得し、毎月の安全点検、登下校指導、ヒヤリハット報告等の取組のみならず、児童生徒の心の安心も含めた日々の地道な取組を行ってきた。
- ・授業においては、児童生徒一人一人が自分の能力、個性を最大限に発揮して活動できるように、これまで以上に「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」の充実と活用を図った。小学部では基本的な生活習慣を身につけ、友達や先生と楽しくかかわり合うこと、中学部では社会的自立に向けての校外学習、現場実習等、充実したキャリア教育を計画的に進めていくことができた。

6 次年度への課題・改善方針

- ・児童生徒の自立と社会参加の実現のためには、教師の専門性の更なる向上が必要である。教師が児童生徒一人一人の実態把握、特に発達段階や教育的ニーズを把握し、個に応じた教材教具の工夫、一斉指導での授業の進め方及び多様な学びを促進する授業づくりに取り組んでいく。また、特に自立活動における課題設定の流れについて整理し、工夫・改善を図っていくとともに、具体的な指導の在り方について実践的な研究を深め、本校教育の一層の充実と専門性の向上を図る。
- ・進路指導については、これまで以上に実習・就労先の開拓、生徒の能力・適性、社会の動き等を踏まえた教育課程の工夫・改善に引き続き取り組み、一人一人の進路希望実現を目指す。また、卒業生への指導や現場実習からの課題を整理し、小・中学部における指導にも活用できるようにしていく。併せて、不易のものを大切にしながらも。変化の速い世の中の流れを先読みし、5年後、10年後を見越した作業内容や心身の健全な育成ができるような準備も創造的に進んでいく。
- ・本年度、防災型コミュニティスクールから総合型コミュニティスクール（学校運営協議会）へ移行したものの、豪雨災害や新型コロナウイルス感染症のため思いどおりに進めることができなかった。次年度は会議のあり方等を創意工夫し、本校教育の活性化に向けて取り組んでいきたい。多良木町と福祉子ども避難所としての協定を結んでいるため、初期避難所としての役割や福祉子ども避難所としての機能を果たすことができるように、水や食料の備蓄品や避難所に必要なものについて、町の防災会議等の中で協議していく。また、多良木高校跡地への移転後の福祉子ども避難所としての機能のビジョンを考えておく必要がある。
- ・令和6年度の多良木高等学校跡地への移転に向けて、地域の資源活用や地域貢献等について熟議して、地域に愛される球磨支援学校を目指して、今年度できなかったことを創造的に取り組んでいく。そのために、達成可能な内容を精査し、負担にならないように優先順位を踏まえて、一步一步着実に進めていく。また、移転後は多良木中学校と隣接になる。町内4小中学校、特に多良木中学校との学校間交流のあり方を再考するための交流準備委員会を設置し、移転前に実施しておくべきことなど、教職員の共通理解を深め、共生社会のモデルを目指す。
- ・毎月、衛生委員会では時間外業務削減状況について確認し、全職員へ報告することを継続して行う。働き方改革の徹底が優先できる職場環境づくりに向けて、ワークライフ・バランスのとれた教職員の育成を図る。